

文豪 徳富蘆花も見た九十九里浜の変形太陽

鈴木建人¹⁾・大木淳一²⁾・山口友樹¹⁾

¹⁾千葉県環境生活部スポーツ・文化局文化振興課

²⁾国立歴史民俗博物館博物館事業課

はじめに

1911(明治 44)年 6 月 21 日に九十九里沖で寺田寅彦博士が上位蜃気楼を観測して以来、2015 年に千葉県九十九里町で再観測するまで、本地域において明らかに上位蜃気楼と認識できるスケッチ・写真・記述等は見つからなかった¹⁾。

今回、近代の文豪である徳富蘆花(本名:健次郎)が 1917(大正 6)年夏、九十九里浜滞在中に上位蜃気楼である変形太陽を目にして記したと考えられる文章を見出したため、検証する。

随筆「九十九里」とその記述

1918(大正 7)年発行『新春』²⁾中の随筆「九十九里」で、徳富蘆花は豊海村小字栗生(現:九十九里町栗生)で過ごした 1917(大正 6)年 7 月 1 日～8 月 1 日の一夏を回想している。当時は健康法として海水浴が人気で、蘆花も好天日は日の出前と昼過ぎに海水浴を行っていた。海水浴について次の記述がある。

大抵は日輪様より私が早かった。海にざぶざぶやつて居る中に日が出ることもある。上つてから出ることもありました。大抵は水平線に横雲がかゝり、水から直ぐに日の生るゝを見たことはありませんでした。鳴浜村の小学校長押鐘さんの話によれば、四年間日の出を見るが、完全の日の出は減多にないとのことでした。私の一月の経験ではもとより然でありました。大抵雲がありました。ある時は市女笠なつりの容もやをして日が出ました。ある時は霧があつて、ぼんやりと真鍮色に日が出ました。市女笠とは古代・中世に用いられたつばの広い編笠の一種で、主に外出する女性が被るものであった(図 1)。この「市女笠なつりの容もや」が変形太陽の描写と考えられる。

図 1 描かれた市女笠³⁾



市女笠形太陽の観測

「九十九里」によれば、蘆花はいつも栗生海岸で海水浴しているため、太陽を見た場所も同所と考えられる。また蘆花は日記⁴⁾を残しており、ここから観測日を特定することができた。日記には時々刻々と変形する太陽の詳細な記述もあった。

○七月九日(月) 晴 風冷

日の出ぬ内にと急ぎ浜に出る。有明月は西にかゝり、東は日出前の明るく、秋暁の様な気が海陸に満ちて居る。(中略)

細君が来た。共に日の出を見る。最初水平線上の雲に一線の朱がある。やがて其の上にまた短かい朱線が出来る。上のが漸次拡大して、丁度市女笠の形になる。やがていびつのゆらゆらした大きな日が出る。渚に金が流れる。以上により、蘆花の見ている間に太陽は大きく分けて四段階の変化をしていたことが分かった。

徳富蘆花が見た変形太陽

蘆花が記述した「最初水平線上の雲に一線の朱がある(①)」、「やがて其上にまた短い朱線が出来る(②)」、「上のが漸次拡大して丁度市女笠の形になる(③)」、「やがていびつのゆらゆらした大きな日が出る(④)」という記述と類似する変形太陽を表 1 に 4 日分示した。

考察

蘆花が記した①～④の各記述について、以下に考察する。

- ① 発表者は蘆花と同様に、水平線上に線状の太陽を観測している。ただし、最初に現れる「一線の朱」は2023年7月30日のように直線的なものもあれば、他の3日間のようなやや厚みのある線状の太陽も観測している。
- ② 2023年7月30日や同年8月2日に、水平線上に現れた太陽の直上に短めな太陽が見えることがあり、本記述と同様の変化を確認できた。また、2015年8月6日のように線状の太陽が膨らみ始めた後、その直上に太陽が現れるパターン、2021年7月20日のようにグリーンフラッシュとともに直上の太陽が伸びて水平線上の太陽と合わさったように変化する等、様々な変化も見出している。
- ③ 2021年7月20日のように市女笠のようなパターンもあるが、帽子状、あるいは

四角い太陽へ変化するパターンもあるため、様々な変化があることを観測している。

- ④ 海上の逆転層を太陽が上りながら通過する際、キノコ状に変化し揺らぎなら太陽の下部が変化することを観測したので、同様な「ゆらゆら」を観測したと考えられる。上記のように、発表者が観測した変形太陽の様子と徳富蘆花の日記の記述には合致する点が多いことから、蘆花の日記及び随筆「九十九里」は大正6年夏に九十九里町の海岸で上位蜃気楼である変形太陽を見出した貴重な記録と考えられる。

引用文献

- 1)大木淳一・武田康男. 2018「2015年～2016年に千葉県九十九里浜で観測された上位蜃気楼」『千葉県立中央博物館自然誌研究報告』14:29-4. 千葉県立中央博物館
- 2)徳富健次郎. 1918「九十九里」『新春』. 福永書店
- 3)円伊画・鈴木久治模写. 1913-1915『一遍聖繪』. 国立国会図書館デジタルコレクションより部分拡大
- 4)徳富蘆花. 1986『蘆花日記』5(大正六年六月-大正六年十月). 筑摩書房

表1 徳富蘆花の記述と九十九里町真亀海岸で観測した変形太陽の比較

	2015年8月6日	2021年7月20日	2023年7月30日	2023年8月2日
①最初水平線上の雲に一線の朱がある				
②やがて其上にまた短い朱線が出る				
③上のが漸次拡大して丁度市女笠の形になる				
④やがていびつゆらゆらした大きな日が出る				